

～TANKYU～

谷地南部小学校

校内研究だより

2022. 8. 26

No.16 文責 荒木秀

第3回研究全体会を終えて②

Q2 今日の研修を受けて見えた自分自身の課題は何ですか？

- 子どもの問い＝教師の問いではない場面もあるが、のるかそるかは深い教材研究がなければ到達しないのだと思いました。子どもたちをよく知り、教材をよく知り、知ってもおごることなく磨いていくような心持になりたいと思いました。
- 教師側の意図や、計画、こうしてほしいという願いを子どもに知らず知らずのうちにおしつけてしまっているところがあったなと感じました。児童が興味を持って自ら学びたいと思えるような教材提示、そして児童と一緒に作っていく授業にしていきたいと思いました。
- 教室の話し方にとらわれすぎず、子どもが話したいことをみんなの前でも話せるような授業に変え、受容して最後まで聞く姿勢を意識したい。
- 子どもの話を今まで以上にじっくりと聞くことと板書の工夫です。
- 子どもが何を学びたいか、どうしていききたいかを大切にしていきたいと思いました。自分の学級では、発言が少なく声も小さいので、言いたい、伝えたいという思いを強く持てるように授業を考えていきたいです。また、安心して話せる学級作り、受容と共感・安心と信頼できるような学級作りをしていきたいです。
- 自分の中にある固定観念を見直し、子どもを信頼し子どもに預ける度量。臨機応変さ。
- まずは、授業で対話ができるようにしていきたいです。その子らしく話せる授業をしていきたいです。
- 教育用語だけで語るのではなく、児童の姿を通して話せること。児童の姿と、教育用語を結び付け価値づけたり振り替えったりすること。

ときに「教師のねらい」が「子どもの主体性」を邪魔してしまうというジレンマをどう克服していくか。小林先生から私たちに与えられた課題ですね。子ども達に何でもかんでも委ねればいいのかという単純なものではありません。「『子どもと共に創る』の主語は教師。子どもとともに相談しながら進めることを大事にしてほしい。」という小林先生の言葉が大切なかなと私は感じました。さあ、みなさんどうやってこの課題を克服していきましょう？今年度中にまた小林先生に来校していただく予定です（3学期頃）。そのときに、「南部版の答えはこれです。」って、自信をもって言えたらいいですね。